日本医労連

看護闘争ニュース

NO．８７

2006年11月１日

医師･看護師ふやせ 10.27 中央集会
5300 人が増員アピール

10 月 27 日、医師・看護師の増員を求める集会は、日比谷野外音楽堂は白衣一色で、「医師をふやせ、看護師をふやせ」のシュプレヒコールが音楽堂を超え、厚労省めがけて鳴り響きました。

日本医労連、民医連など医療関係 10 団体が開催。

落語家の林家木久蔵さんとオーストラリア看護連名の代表が連帯の挨拶。参加者のリレートークは、患者負担増や医療現場のきびしさ、医師・看護不足の深刻さが次々に訴られました。

集会後、銀座から東京駅へと、白衣のパレードがどこまでも続きました。パレードには、沿道からの「がんばって」の声援や、ビルから

集会、パレードと、どの顔もどの顔も笑顔が輝いていました。

間髪いれず地方での世論化を！

自治体決議・地元国会議員への要請・自治体交渉を

10.27 中央行動のウェーブを地方に発信しながら、日本国中を揺るがす「看護師ふやせ」の世論化が今後の運動の大きな鍵になります。

来年の通常国会で、多くの国会議員が超党派で「看護師不足」を問題にし国会質問する状況を作り出す。そのために、この秋が勝負です！

◆ **地元のすべての国会議員に要請は計画されていますか？**

過酷な実態を訴えるとともに、現地調査や夜勤体験などを要請してください。「一見は百聞にしかり」です！

◆ **「国への意見書」の自治体決議運動はすすんでいますか？**

◆ **自治体交渉は計画されていますか？**

診療報酬改定（「7 対1」の新設、「3 対1」への底上げ）で、昨年末に立てたばかりの需給見通しが崩壊したとの自治体発言が相次いでいます。国も見直しも含め検討を公言しました。

山形県医労連

白衣の 100 人が ナースウェーブと憲法県民集会へ

山形県医労連では、10 月 20 日「第 21 回看護討論集会」を上山で開催。約 70 名が参加し、「看護労働とメンタルヘルス～看護現場における問題点と今できる対応策」と題して、筑波大の三木明子助教授が講演。日本医労連・看護闘争委員長の大村利美さんが「安全な看護がしたい　看護師の増員を！～私たちをとりまく情勢と私たちの運動～」と題して学習会。その後、分散会に分かれて翌日の午前中まで討論。集会終了後、山形市内の繁華街で 100 名がナースウェーブ（街頭宣伝）を行ないました。ナースウェーブは県医労連と県民医連の合同で行ないました。

ナースウェーブの後、憲法県民集会（20000 人）が行なわれ、ナースウェーブの白衣部隊がそのまま集会に合流し、白衣が非常に目立ちました。

宮城県医労連

130 人で秋のナースウェーブ in みやぎ

10 月 7 日の土曜日、仙台駅前の「秋のナースウェーブ in みやぎ」は 130 人が参加し、署名は 972 筆集りました。当日は台風並みの荒天でしたが、「なんとしても成功させたい」の思いが通じたのか、スタートと同時に雨も上がり、駅前は白衣の花がさきました。青年部の「ソーランよさこい」には名古屋大の踊り研究会「シャチ」の皆さんも加わり、開会式を勢い付けました。

医師や若い看護師がリレートークを行い、過酷な実態を訴えました。

事前宣伝では、宮城テレビ「OH！バンデス」に生出演し、看護現場実態や看護師川柳を紹介し、「医師看護師ふやせ」を大いにアピールしました。

和歌山県医労連

ナースウェーブ、まつりで紙芝居

和歌山ナースウェーブ実行委員会（県医労連・民医連）が 10 月 14 日ナースウェーブ学習会を開催、５３名が参加しました。

田中千枝子委員長は、「看護師がワーワー言ってたら、日本の医療はちょっとおかしいのではないかと回りの人は思うようになる。看護師増やせの世論をつくり、政治を変える闘いを広げよう」と、また「外へ出よう」「現場ナースの話が一番！」「もしかしたら・・・と思うような運動を」「ナースウエーブを若い人たちの言葉で」と訴えました。

ナースウエーブ学習会の終了後、生協病院内で行われた「健康まつり」では、民医労の皆さんが紙芝居でまつり参加者に、看護師を増やして下さいと訴えました。